

いしかわ歴史遺産認定

平安の世の歴史物語が息づく

# 歌舞伎のまち 小松

KOMATSU JAPAN Komatsu the City of KABUKI



## いしかわ歴史遺産とは

石川県内の各地に点在する文化財や歴史、伝承、風習等をわかりやすいストーリーとしてまとめ、全国にその魅力を発信し、観光誘客や地域活性化を図ることを目的に創設されました。

平成28年1月、「平安の世の歴史物語が息づく歌舞伎のまち・小松」が認定を受けました。

# 「平安の世の歴史物語が息づく歌舞伎のまち・小松」

小松には、安宅の関跡をはじめ、伝説の白拍子「仏御前」にちなんだ史跡や木曾義仲との悲劇を生んだ斎藤別当実盛の兜など、源平物語にまつわる歴史遺産が多く残されています。



子供歌舞伎「勧進帳」

室町時代に、この源平の物語から謡曲「安宅」「仏原」「実盛」が誕生し、地域の人々が芸能に親しむ土壤を創出します。江戸時代には、加賀前田家三代利常公の小松入城に始まるまちづくりが、小松の経済を興し、のちの曳山子供歌舞伎に代表される町人文化を華咲かせ、人々の心に豊かさと潤いをもたらしました。

平安の世の歴史物語がつむぎ出した伝統芸能を受け継ぐDNAは、小松の人々に脈々と受け継がれ、歴史と伝統が息づく「歌舞伎のまち」をつくり出します。

## Komatsu the City of KABUKI

Komatsu City, located the southern part of Ishikawa Prefecture, is known as the "City of Kabuki" as it is rich in the culture and history of the theatrical tradition of Kabuki. There are many ways to feel the spirit of Kabuki when visiting Komatsu.

Komatsu is home to Ataka no seki Ruins, said to be the historic setting of "Kanjincho" a famous Kabuki play.

The dazzling Otabi Festival with a 360-year-old history, held annually in May, showcases Edo culture with children performing Kabuki on Hikiyama floats elaborately decorated with engravings, pictures, and gold & lacquer-works.

The National Children's Kabuki Festival is held at Komatsu Urara Theater in early May where the children of Komatsu and other cities perform some of the Kabuki plays such as "Kanjincho".

At Komatsu Hikiyama Gallery "MIYOSA", two gorgeous hikiyama floats are displayed, and you can play traditional instruments used in Kabuki plays.

Komatsu offers a range of opportunities for visitors and locals alike to see, experience, and enjoy the world of Kabuki.

## 「いしかわ歴史遺産ストーリー」

### 加賀国府と白山信仰

平安時代、律令制最後の国として加賀国が誕生すると、政治・経済・信仰の中心をなす国府が小松に置かれました。

平安時代末頃には、白山信仰が力を伸ばし、国府周辺にも白山中宮八院が成立します。その一つ涌泉寺での事件をきっかけに白山勢力が国府と武力衝突を起こしました。この出来事は武家台頭の誘因となり、時代は武家の世へと移り変わっていきます。



木場潟から望む白山

### 美しい白拍子

#### 「仮御前」の伝説

小松には、平安末期に台頭した平家にまつわる物語が残っています。その一つとして、平清盛の寵愛を受けた加賀の白拍子「仮御前」の物語が『平家物語』祇王の巻に登場します。

小松市原町には、仮御前が生まれ故郷の「原」に帰り、亡くなつたという伝説と、関連した史跡が残されています。

### 源平の悲劇の物語

#### 「実盛の兜」と

平安末期、京に進む木曾義仲軍は篠原で平家軍と合戦に至ります。大将に扮する老兵を討ち取ると、それは命の恩人として慕つた斎藤別当実盛でした。

多太神社には、義仲が実盛を供養するために奉納したと伝わる兜が安置されたり、能の演目として広まりました。



実盛の兜



仮御前 白拍子の舞

### 安宅の関を

#### 「智・仁・勇」の物語

「義經記」をもとに、室町時代に謡曲「安宅」が書かれ、江戸後期には歌舞伎「勧進帳」が完成します。

物語は、平家打倒後、兄頼朝と対立し追われる身となつた源義経が、奥州平泉に落ち延びる場面から始まります。山伏に扮した義経一行が安宅の関を通ろうとしたところ、関守の富樫左衛門が疑います。この危機を乗り切るため、武藏坊弁慶が東大寺復興勧進のための役僧と称し、即興で「勧進帳」を読み上げます。さらに、剛力姿の義経が咎められると、疑惑を晴らすため金剛杖をもつて主君義経を打ち据えます。富樫は、弁慶の主君を守ろうとする忠義心に心をうたれ、一



曳山子供歌舞伎

### 「曳山子供歌舞伎」 250年の歴史を 今につなぐ

江戸時代中期、春の例大祭「お旅まつり」に、曳山舞台で演じる子供歌舞伎が始まります。小松市に曳山が誕生して250年、絢爛豪華な曳山と艶やかな子供歌舞伎は今も受け継がれ、小松の歌舞伎文化を支えています。



能「安宅」



安宅の関跡

# 歌舞伎のまち「小松」を代表する三大行事

## 全国子供歌舞伎 フェスティバルin小松

「歌舞伎のまち小松」の魅力を全国に発信しようと、平成11年より「全国子供歌舞伎フェスティバルin小松」が始まりました。こまつ芸術劇場うららを舞台に、全国各地の子供歌舞伎と、地元小松の子供たちの競演が繰り広げられます。小松市は毎年、市内の小学4～6年生から公募した子供役者が「勧進帳」を上演しています。



## 小松市中学校 文化連盟古典教室

義経主従の陸奥下向の年から800年を迎えたことを記念する「勧進帳小松八百年祭」の開催と時を同じくして、昭和61年、小松市内中学校による「勧進帳」公演が始まりました。毎年11月に小松市内の中学校10校の内の1校が持ち回りで歌舞伎「勧進帳」の上演に挑戦しています。役者や長唄・囃子方、メイクや着付け等の裏方も全て中学生が行っています。



### 曳山（市指定文化財）

曳山は、明和3年（1766年）に、龍助町・西町より始まり、最盛期には17・18基もの曳山があつたと伝えられます。文化10年（1813年）には10基となり、昭和初期の大�によって、松任町と東町の曳山が焼失して、現存の8基となりました。毎年2町が当番町となり、それぞれの曳山上の上子供歌舞伎を上演しています。

### 曳山

板絵の裏の墨書きより、文化10年（1813年）かそれ以前に建造されたと推測されています。天井の絵は九谷焼の名工、栗生屋源右衛門のもので15枚の花鳥図が格天井に組み込まれています。

曳山の棟札から、寛政2年（1790年）の建造で、加賀藩の名工、山上善右衛門の流れをくむ大工の棟梁、藤山清九郎の作であるとされています。

曳山の棟札から、寛政2年（1790年）の建造で、加賀藩の名工、山上善右衛門の流れをくむ大工の棟梁、藤山清九郎の作であるとされています。

曳山の棟札から、寛政2年（1790年）の建造で、加賀藩の名工、山上善右衛門の流れをくむ大工の棟梁、藤山清九郎の作であるとされています。

## お旅まつりの曳山行事

### （県指定文化財）

毎年、5月中旬に行われる「菟橋神社」と「本折日吉神社」の春季例大祭のお旅まつりは江戸時代初期より始まりました。「お旅」という名は、神様を乗せた神輿が氏子町内や小松城の御門などを巡行（お旅）することが由来と言られています。1766年、町人たちがまつりを盛り上げるため曳山行事を取り入れ、曳山の上で芝居が演じられるようになりました。絢爛豪華な曳山と、その上で上演される子供歌舞伎がまつりの見どころです。近年は、お旅まつりのクライマックスとして、八基の曳山が曳き揃い、まつりを盛り上げています。



### 材木町曳山

二重屋根で高さが6・57mと八基の中でも最も高く、二重屋根の上層は那谷寺の鐘楼をかたどっています。天井には金箔が施された板に四神（青龍・白虎・朱雀・玄武）が描かれています。

曳山の棟札から、寛政2年（1790年）の建造で、加賀藩の名工、山上善右衛門の流れをくむ大工の棟梁、藤山清九郎の作であるとされています。

曳山の棟札から、寛政2年（1790年）の建造で、加賀藩の名工、山上善右衛門の流れをくむ大工の棟梁、藤山清九郎の作であるとされています。



### 西町曳山

曳山の棟札から、寛政2年（1790年）の建造で、加賀藩の名工、山上善右衛門の流れをくむ大工の棟梁、藤山清九郎の作であるとされています。

曳山の棟札から、寛政2年（1790年）の建造で、加賀藩の名工、山上善右衛門の流れをくむ大工の棟梁、藤山清九郎の作であるとされています。



### 大文字町曳山

曳山の棟札から、寛政2年（1790年）の建造で、加賀藩の名工、山上善右衛門の流れをくむ大工の棟梁、藤山清九郎の作であるとされています。

曳山の棟札から、寛政2年（1790年）の建造で、加賀藩の名工、山上善右衛門の流れをくむ大工の棟梁、藤山清九郎の作であるとされています。



### 京町曳山

曳山の棟札から、寛政2年（1790年）の建造で、加賀藩の名工、山上善右衛門の流れをくむ大工の棟梁、藤山清九郎の作であるとされています。

曳山の棟札から、寛政2年（1790年）の建造で、加賀藩の名工、山上善右衛門の流れをくむ大工の棟梁、藤山清九郎の作であるとされています。



### 龍助町曳山

曳山の棟札から、寛政2年（1790年）の建造で、加賀藩の名工、山上善右衛門の流れをくむ大工の棟梁、藤山清九郎の作であるとされています。

曳山の棟札から、寛政2年（1790年）の建造で、加賀藩の名工、山上善右衛門の流れをくむ大工の棟梁、藤山清九郎の作であるとされています。



# 歴史物語のかりの地を訪ねて

## 安宅の関跡 石川県指定史跡 MAP 1

古代北陸道の駅のあった地であり、加賀国の水陸交通の要衝地です。謡曲「安宅」、歌舞伎「勧進帳」の舞台として知られています。「安宅の関跡」は海を見渡す松林の中にある、すぐそばには、弁慶・富樫・義経の銅像が立っています。



## 安宅住吉神社 MAP 2

安宅の関跡を境内に持つ神社です。安宅湊に占地する古社であり、船舶安全祈願、「難関突破」の靈神としての信仰を集めています。



## 加賀国府跡（推定地） MAP 3

能美平野を望む台地上に立地し、この地に代集落遺跡が濃密に分布し、背後の里山には、国分寺の僧たちの修業場として山寺が複数分布しています。



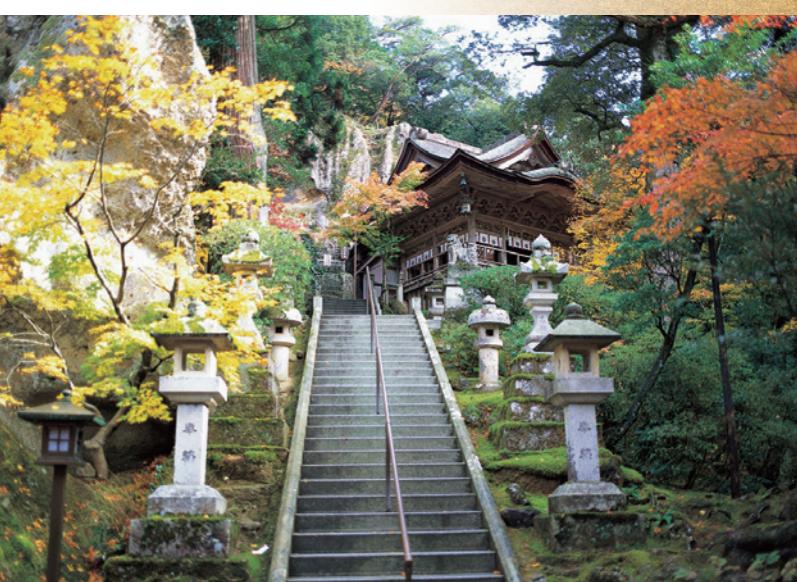
## 前田利常公が育んだ小松の伝統文化 MAP 4

加賀国分寺の塔の頂部を飾る相輪として制作されたと推定される全国でも稀な須恵器製品です。9世紀に位置づけられる戸津窯跡から出土しました。（小松市立博物館収蔵）



## 那谷寺本堂 国指定重要文化財 MAP 5

那谷寺は、『源平盛衰記』にも登場する白山三カ寺の一つです。戦国時代の一一向一揆で荒廃ましたが、近世に本堂などが再建され復興されました。芭蕉が奥の細道紀行の途中で立ち寄り、「石山の石より白し秋の風」の句を残した名刹でもあります（国の名勝指定地）。



## 那谷寺跡（伝承地） MAP 6

原町には、『平家物語』に登場する平清盛の寵愛を受けた加賀の白拍子「仮御前」にちなんだ史跡が多く存在します。「仮御前屋敷跡・仮御前墓」（市指定文化財）は、故郷の原に帰り庵を構えた場所とされており、現在は供養塔が建てられています。「奈良の地」は、火葬した地と伝わる場所で、五輪塔が祀られ、町内の民家では現在も仮御前の仏像が安置されています。（仮御前が祇王寺を発つとき、身代わりとして預けたと伝わるもので、650回忌に故郷の原町に贈られました。）毎年、9月16日に御前様祭が開催され、仮御前の像の前で、地元女子中学生による「白拍子の舞」が奉納されています。



## 仮御前の里 原町 MAP 7

源平の戦「篠原の戦い」にて木曾義仲軍に敗れ非業の最期をとげた武将斎藤別当実盛の兜一式と伝えられています。芭蕉も奥の細道紀行の途 中立ち寄り、兜を拝謁し、「むざんやな甲の下のきりぎりす」の句を詠みました。



## 多太神社所蔵の兜、袖、臑當 MAP 8

国指定重要文化財

毎年、7月下旬にかぶと祭りが開催され、拝殿では能「実盛」が奉納されます。

## 利常公の殖産興業と文化政策 MAP G

利常公は、中世から定着していた絹織物産業に、京などから先進的な技術を取り入れ「加賀絹」ブランドを確立させます。また、経済活性化させると同時に、加賀大工の祖・山上善右衛門、連歌の第一人者・北畠能順、裏千家の創始者・千宗室など、多くの名工・文化人を小松に招聘し、小松のみならず加賀藩に高い文化の創出をもたらしました。



## 小松城の整備とまちづくり MAP H

利常公は、加賀一向一揆の拠点であった小松城を本丸と定め、二の丸、三の丸の増築など大規模な改修を行いました。石垣で区画された城内には、多くの水堀と島を配置し、「小松の浮城」とも呼ばれる、類まれな景観を持つ名城として生まれ変わりました。



## 前田利常公が育んだ小松の伝統文化 MAP I

利常公は、加賀一向一揆の拠点であつた小松城を本丸と定め、二の丸、三の丸の増築など大規模な改修を行いました。石垣で区画された城内には、多くの水堀と島を配置し、「小松の浮城」とも呼ばれる、類まれな景観を持つ名城として生まれ変わりました。



茶道



仙叟屋敷ならびに玄庵 MAP G



### こまつ町家

小松の中心部には、昭和57年の大火後に再建された町屋が多く残っています。その町割りは、寛永17年(1640)に加賀前田家三代利常公が隠居城である小松城へ入り、整備を行った城下町の区画が踏襲されています。



### 勧進帳ものがたり館 MAP A

歌舞伎「勧進帳」シアターゾーン、義経・弁慶発見ゾーン、安宅発見ゾーンの3つのゾーンで安宅の閑を紹介しています。

小松市安宅町タ140-4 ☎ 0761-21-6734  
開館時間／9時～17時  
入館料／大人300円、高校生以下150円  
休館日／水曜、年末年始



### こまつ曳山交流館 みよっさ MAP B

平成25年春に開館した、絢爛豪華な曳山2基を常設展示する施設。曳山の迫力ある姿を間近で見ることができます。

小松市八日市町72-3 ☎ 0761-23-3413  
開館時間／10時～17時 入館料／無料  
休館日／4月～11月は無休。  
12月～3月は水曜、年末年始



### こまつ芸術劇場うらら MAP C

平成16年に開館した本道花やセリを持つ本格的な歌舞伎公演のできる劇場です。

小松市土居原町710 ☎ 0761-20-5500  
開館時間／9時～22時  
休館日／水曜、年末年始



### 粟津演舞場 MAP D

加賀に残された唯一の芝居小屋として注目され、平成26年にリニューアル開館しました。

小松市井口町1 ☎ 0761-65-3939  
開館時間／9時～18時  
施設見学料／200円  
休館日／水曜、年末年始

### 小松市立錦糸展示館 MAP E

小松市大文字町95番地1 ☎ 0761-23-2668

開館時間／午前9時～午後5時  
(ただし、入館は4時半まで)

入館料／一般 個人 300円

団体(20名以上) 250円

※高校生以下は無料

休館日／祝日の翌日、月曜日、展示替え期間、  
年末年始(12/29～1/3)休館

### ジャパン九谷のふるさと「松雲堂」 MAP F

小松市龍助町27番地

お問い合わせ／0761-24-8130(小松市文化創造課)



锦糸展示館



ジャパン九谷のふるさと「松雲堂」

### お問い合わせ先

#### (一社) こまつ観光物産ネットワーク

〒923-0921 石川県小松市土居原町 710

TEL / 0761-21-8208 FAX / 0761-21-8218

「まるごと・こまつ・旅ナビ」 [www.komatsuguide.jp](http://www.komatsuguide.jp)

